

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7回 相模原市地域ケア推進会議		
事務局 (担当課)		保険高齢部地域包括ケア推進課 電話042-769-9231 (直通)		
開催日時		平成31年1月31日(木) 15時30分～16時30分		
開催場所		ウェルネスさがみはら 7階視聴覚室		
出席者	委員	19人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	6人(保険高齢部長、地域包括ケア推進課長ほか4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 住民主体サービスの見直しについて (2) 地域ケア会議運営費の拡充について (3) 地域の移動支援の推進(モデル事業)について 3 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 議題 会長の進行により、議事が進められた。

(1) 住民主体サービスの見直しについて

- ・事務局より資料に基づき説明を行った。

【主な質疑】

○住民主体サービスは月2回以上を対象にしているが、月1回の高齢者の通所サロンが全市に200か所以上あり介護予防に貢献している。活動頻度等から補助金の対象にならないのは承知しているが、取り組んでいただいていることに対して何らかの評価をすべきではないか。

●住民主体サービスの補助の対象にならない活動であっても、こうした介護予防に資する地域の活動を応援させていただくことを考えていきたい。

○これまで、様々な活動を行う補助団体がある。例えば、健康麻雀をベースに体操を加えた活動が補助の対象になっている。公民館が有料となったことから、今後、財政面で申請する団体があるのではないかと思う。体操を取り入れ、通いの場となっていることは大変いいことだと思うので問題はないと思うが、地域から心配の声も聴いているので、市でも目配りをしていただければと思う。

●健康麻雀など従来の活動に体操を取り入れ、補助制度の要件に該当していくような団体についても、通いの場が地域に増えていくことが重要だと思っている。市としても出来るだけ現場を見にいくようにしていきたい。

○担い手として学生が参加するという事は考えていないか。

●シニアサポート活動は、地域で元々活動をしていた団体や補助制度を契機に新たに活動を始める任意団体が行っている。団体の考えで学生に声かけをして、担い手の一人として学生を起用する事はあると思うが、市から大学などへの働きかけは現在行っていない。

○現在の補助制度の取組の中で大学生が参加しているかわからないが、市内のサロン活動には大学生が参加しているところもある。

(2) 地域ケア会議運営費の拡充について

- ・事務局より資料に基づき説明を行った。

【主な質疑】

○各地区が地域ケア会議活動費を使ってどのような取組をしているか、地域づくり部会がどう活性化しているか等、地域づくり部会同士の交流の場があるとよい。ぜひ検討いただきたい。

●今後活動費を導入し、活動事例等良いものがあれば広めていきたいと思う。

○地域ケア会議活動費の対象となるものが3項目あるが、申請等をするのか。

- 申請のような形で事前に相談していただくことを考えている。活動費については、介護保険の介護予防に係る交付金を財源としているため、介護予防に資する活動の範囲において対象としている。
- 地域づくり部会の中ではさまざまな考え方が出てくる。介護予防に資するという市の考えは分かるが、地域づくり部会で検討された意見は柔軟性をもって考えていただけるとありがたい。
- 今回の地域ケア会議活動費は介護予防という条件があるが、地域活性化交付金等、他の財源もある。また、各地区には生活支援コーディネーターも配置されている。他の財源も地域の取り組みの財源の一つと考えていただきたい

(3) 地域の移動支援の推進（モデル事業）について

- ・事務局より資料に基づき説明を行った。

【主な質疑】

- 利用者の身体レベルが違くとニーズも違ってくると思うが、モデル地区を選ぶにあたり、対象となる利用者の状態像はどのように考えているか。
- 対象者としてイメージしているのは、ほぼ自立に近い方である。介護度の重い方は福祉有償運送等のサービスがあり、身体障害者の方にはあじさい号などがある。車椅子を利用している方を対象とすると担い手の負担が大きいと思われる。まずは、モデル地区としての取り組みの希望を地区に確認し、地区がどんな考えを持っているかヒアリングなどを行い、モデル地区を選定しようと考えている。
- 各地区社協ではこの移動手段の問題は色々協議されている。モデル地区の選定については地区社協にも情報を出しながら相談すれば、その後全地区に広めていくに当たっても有効だと思う。
- 承知した。
- モデル地区の選定は、手上げ方式なのか。
- モデル地区の選定は手上げ方式を考えている。その後地区社協や地域づくり部会のお話を聞く等ヒアリングを実施し選考していきたいと考える。
- 昨年、地区総合計画、都市計画の策定で相模原市全22の地区のまちづくり会議で地区課題と対応策をまとめて行政に報告している。22地区のうち21地区で高齢者の移動手段、規則の緩和も含めて交通不便地区の問題を提案している。今後、各地区のまちづくり会議では移動手段の議論が進むと思う。その際、是非、庁内の関係各課との横の連携をとっていただきたい。
- 平成30年度から、交通政策課、障害の分野、商業関係の買い物支援の関係課などと4回ほど庁内勉強会を行った。生活支援コーディネーターや高齢者支援センターの職員にも参加いただき、福祉と交通の庁内の連携体制ができたと考えている。今後も庁内の連携体制をしっかりとっていきたい。
- 資料2ページ目の枠の中に ア モデル地区への助言・相談支援の中に・ニーズ及び社会資源の把握、・地域の実態調査の実施、・担い手の発掘育成とある。これについては、

すでに高齢者支援センターと生活支援コーディネーターが把握しているが、その情報と有識者に支援していただくところの連携や役割分担などはどのような形でやっていくのか。また、それを実施するにあたりセンターの職員と生活支援コーディネーターのどちらが主体的になっていくのか。

- 生活支援コーディネーターとの連携を考えている。今回、助言や支援を考えている有識者は、すでに福祉有償運送などにも取り組んでおり、市内においても取組を進めようとしている地区などを支援している。移送支援を行う上での課題の一つはドライバーの確保であるが、ドライバーの研修もこのNPO法人が行っている。モデル事業では、各地区の地域づくり部会の構成員の方、生活支援コーディネーター、高齢者支援センターとの連携を図りながら実施していきたいと考えている。

(4) 連絡事項

- 講演会のお知らせ

3 閉会

以 上

第7回相模原市地域ケア推進会議委員 出欠表

平成31年1月31日開催

No.		氏名	ふりがな	選出団体等	出欠
1	委員	秋知 明	あきち あきら	相模原市歯科医師会	欠席
2	委員	浅野 友美	あさの ともみ	神奈川県理学療法士会	出席
3	委員	油谷 和子	あぶらたに かずこ	神奈川県看護協会相模原支部	出席
4	委員	石黒 雄彦	いしぐろ たけひこ	相模原市老人クラブ連合会	出席
5	委員	伊藤 勉	いとう つとむ	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
6	委員	柿沢 正史	かきざわ まさふみ	相模原市シルバー人材センター	出席
7	委員	黒田 協子	くろだ やすこ	かながわ住まいまちづくり協会	出席
8	委員	小池 恭子	こいけ やすこ	さがみはら介護支援専門員の会	出席
9	委員	小林 立	こばやし りゅう	相模原市高齢者福祉施設協議会	出席
10	委員	澤田 弘之	さわだ ひろゆき	相模原市薬剤師会	出席
11	委員	高部 博	たかべ ひろし	相模原市社会福祉協議会	出席
12	副会長	陳 勁一	ちん けいいち	相模原市医師会	出席
13	委員	富樫 るみ	とがし るみ	認知症高齢者をかかえる家族の会 友知草の会	出席
14	委員	原田 裕也	はらだ ゆうや	神奈川県弁護士会相模原支部	欠席
15	会長	久松 信夫	ひさまつ のぶお	学識経験者 桜美林大学 健康福祉学群	出席
16	委員	廣瀬 憲一	ひろせ けんいち	相模原市病院協会	出席
17	委員	穂苅 健二	ほかり けんじ	相模原市自治会連合会	出席
18	委員	松岡 一美	まつおか かずみ	神奈川県社会福祉士会相模原支部	出席
19	委員	三木 香乃	みつぎ かの	相模原市介護老人保健施設協議会	欠席
20	委員	家田 未来子	いえだ みきこ	大野中高齢者支援センター	出席
21	委員	今森 淳子	いまもり じゅんこ	城山高齢者支援センター	出席
22	委員	矢口 君代	やぐち きみよ	田名高齢者支援センター	出席

関係団体、センター職員別に五十音順